

テーマ2

公共施設の再配置・管理運営を考えよう

2017. 7.21 (金)

テーマ2の検討内容

「テーマ2 公共施設の再配置・管理運営を考えよう」では、策定方針に定める
シンボル事業2 スポーツ施設の管理運営の効率化 と
シンボル事業3 老朽化した施設の統廃合・複合化 の具体化に向け、
次の検討を行います。

第2回 公共施設の現状と課題

町には様々な公共施設があり、それぞれに課題があります。

まず、町の
✓ 公共施設の現状
を知っていただき、
✓ 課題
を話し合います。

第3回 公共施設の管理運営

町の公共施設は「予約しにくい」、「あまり利用されていない施設がある」など、サービス向上と管理運営の効率化が課題です。

町が課題解決策として検討している
✓ 利用方法の統一化
✓ 公民連携の導入
✓ 受益者負担の適正化
について考えます。

第4・5回 公共施設の再配置

町の公共施設は老朽化が進み、更新時期を迎えつつあります。
しかし、町の厳しい財政状況と将来の人口減少が予測される中で、全ての施設を維持することは難しく、施設の統廃合・複合化が避けられません。

公共サービスの維持・向上を前提として、
✓ 公共施設の将来像 と、
✓ 施設の統廃合・複合化
の進め方 を
シミュレーションゲームを通じて考えます。

テーマ2の検討内容

公共施設再配置・町有地有効活用を考える上での基礎を講義で学びながら、ワークショップ形式で検討していきます。

● 講演

- ・第2回は、公共施設再配置、町有地有効活用を考える上での基礎となる公共空間の利活用について、最先端でお仕事をされている飯石藍さんをゲストにお迎えしてお話をうかがいます(テーマ1と共通)。
- ・第3回は、テーマ2のワークショップのアドバイザーと務めていただく、東海大学工学部の山崎俊裕教授に公共施設の再配置について、お話をうかがいます。

● ワークショップ

- ・毎回、5～6人程度の班に分かれていただき、班ごとに各回のテーマを検討し、最後に発表して検討結果を共有します。
- ・各班にスタッフを配置し、作業をお手伝いします。



テーマ2では、アドバイザーとして、公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会の委員である、東海大学工学部の山崎俊裕教授にご参加いただき、専門家の立場から助言・指導していただきます。

山崎 俊裕(やまざき としひろ)教授

東海大学工学部建築学科教授

専門分野：建築計画

環境心理・環境行動

公共施設の再編計画論

- ・平成28年度寒川町公共施設等総合管理計画外部策定委員会委員長
- ・平成28年度南足柄市公共施設等総合管理計画策定委員会委員長



第1回講師

テーマ1ではゲストとして、事業開発から業態開発、街づくりまで幅広い分野で活躍しておられる、入川秀人さんに基調講演をして頂きます。

入川さんの実績としては、東急沿線の都市開発やTSUTAYA TOKYO ROPPONGI、UT STORE HARAJYUKUの店舗プロデュースなどで高い評価を獲得されており、現在は、これまでの実績や蓄積したノウハウ、独自のマーケティング手法等を基に、関連企業の企画および開発業務のほか、街づくりや地域ブランディングに関する社会実験や、教育・出版事業等をメインに精力的に活動を行われています。

入川 秀人(いりかわ ひでと)氏

入川スタイル&ホールディングス株式会社
代表取締役／チーフプロデューサー



第2回講師

飯石さんは、コンサルティング会社にて自治体向けの業務改善支援業務等に従事した後、企業CSRの企画支援、全国のNPOの経営支援等を手がける企業での勤務をご経験されています。

2014年より、公共施設・公共空間をもっと面白くするためのメディア「公共R不動産」の立ち上げに参画し、全国各地のまちで公民連携・リノベーションまちづくりのプロジェクトに伴走者として携わられています。

また、

○地元豊島区での暮らしを考える「としま会議」

○公設民営の公園”南池袋公園”の事業推進 など

街のプレーヤーを巻き込んだまちづくりを実践されています。

飯石 藍(いいいし あい)氏

公共R不動産

リージョンワークス合同会社 ディレクター



スケジュール

10月までに全5回、土日・祝日の開催を予定しています。

回	時期	テーマ
第1回	7月21日 <今回>	<ul style="list-style-type: none">○ワークショップの概要○講演「サードプレイス、エリアブランディング」 ～自宅や仕事場から離れた心地のよい第3の居場所となる 交流拠点づくりと、二宮らしさ・二宮ならではの発見～ 講師：入川秀人氏 (入川スタイル&ホールディングス代表取締役／チーフプロデューサー)○オリエンテーション
第2回	9月2日	<ul style="list-style-type: none">○講演「公共空間の利活用」 ～町民の誇りとなる公共空間とは？～ 講師：飯石藍氏(公共R不動産)○公共施設の現状と課題
第3回	9月下旬	<ul style="list-style-type: none">○講演「公共施設の再配置」 講師：山崎俊裕氏(東海大学工学部教授)○公共施設の管理運営 利用方法の統一化、公民連携導入検討、受益者負担の適正化
第4回	10月上旬	<ul style="list-style-type: none">○シミュレーションゲーム(その1) 公共施設再配置シミュレーションゲーム
第5回	10月下旬	<ul style="list-style-type: none">○シミュレーションゲーム(その2) 公共施設再配置シミュレーションゲーム

● 公共施設の現状と課題

- ・町の公共施設や利用状況、管理運営の現状について知っていただきます。
- ・施設種別ごとに、「施設」、「サービス」、「コスト」の視点から、課題を話し合い共有します。

<対象施設>

町民が利用する施設を中心とする56施設

施設分類	施設
庁舎	役場庁舎 町民サービスプラザ 教育委員会事務所
貸館	町民センター 駅前町民会館
福祉施設	保健センター 福祉ワークセンター
スポーツ施設	町立体育館 町民運動場 武道館 町民温水プール 山西プール 袖が浦プール
文化施設	生涯学習センター ラディアン ふたみ記念館
教育施設	小学校(3校) 中学校(2校) 学校給食センター
子育て関連施設	百合が丘保育園 子育てサロン(2施設)
消防施設	分団詰所(5施設)
地域集会施設	児童館(8施設) 老人憩の家(9施設) 公会堂(2施設) 防災コミュニティーセンター(6施設)
その他	自転車駐車場(2施設)

<検討の視点>

施設

- ✓ 建物の安全・安心や快適さ
- ✓ 施設の立地やアクセス

サービス

- ✓ 町民のニーズに合っているか
- ✓ 充実して欲しいサービス
- ✓ 使い勝手

コスト

- ✓ 削減できる管理運営コスト

● 公共施設の管理運営

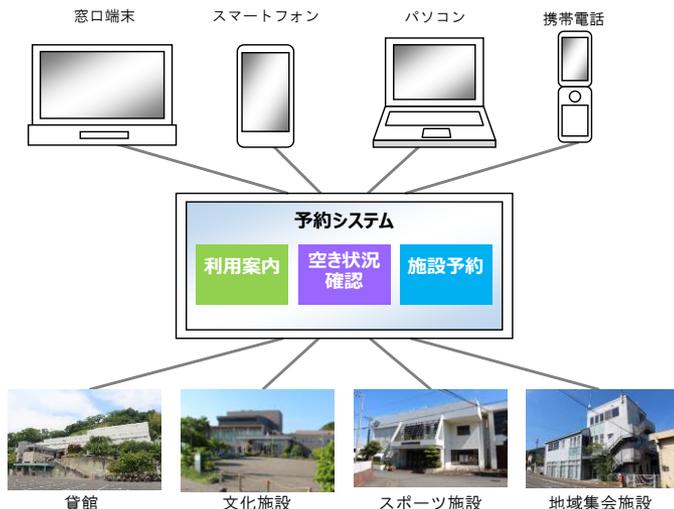
- ・「利用方法の統一化」、「公民連携導入検討」、「受益者負担の適正化」の3つのテーマについて検討します。

【利用方法の統一化】

- ・現在、町の公共施設は、予約や空き状況の確認を行う時、各々の施設に問い合わせなければなりません。また、利用時間や利用方法も施設ごとに決められていて、統一されていません。
- ・このため、町は、公共施設の利用方法の統一化と予約システムの導入を検討しています。

⇒ 利用方法の統一化への期待と課題、利用統一化の方向性を考えます。

<予約システムのイメージ>



<検討の視点>

利用方法の統一化への期待と課題

- ✓ 利用者の立場から
- ✓ 町(管理者)の立場から

利用方法の統一化の方向性

- ✓ サービスの向上
- ✓ 管理運営の効率化

【公民連携の導入】

- ・町のスポーツ施設は、町が直接、施設ごとに管理運営を行っており、管理運営の効率化やサービスの向上が課題になっています。
- ・町は、これらの課題を解決するため、一体的な管理運営と、民間のノウハウを活かした管理運営（公民連携）の導入を検討しています。

⇒町のスポーツ施設に適した管理運営と公民連携のあり方について考えます。

＜スポーツ施設の一体的な 管理運営のイメージ＞



一体的な管理運営

管理運営の効率化・管理運営費の縮減
魅力的なサービスの提供

＜検討の視点＞

スポーツ施設の一体的な管理運営と 公民連携への期待と課題

- ✓ 利用者の立場から
- ✓ 町（管理者）の立場から
- ✓ 民間の立場から

スポーツ施設の一体的な管理運営と 公民連携の方向性

- ✓ サービスの向上
- ✓ 管理運営の効率化

【受益者負担の適正化】

- ・貸館やスポーツ施設、文化施設等の施設は、受益者負担の原則に基づき、利用者から施設使用料を徴収し、管理運営費の一部にあてています。

⇒施設使用料の現状と課題、公平な施設使用料のあり方について考えます。

受益者負担とは？

町が提供する行政サービスは、税金を基本的な財源としていますが、特定の人々がサービスを利用して利益を受ける場合には、受益の範囲内で応分の負担をすることを基本としています（受益者負担の原則）。

公共施設については、施設使用料の形で、施設の管理運営費の一部を負担していただいています。

＜検討の視点＞

施設使用料の現状と課題

- ✓利用者の立場から
- ✓町（管理者）の立場から



みんなが納得できる
公平な施設使用料とは？

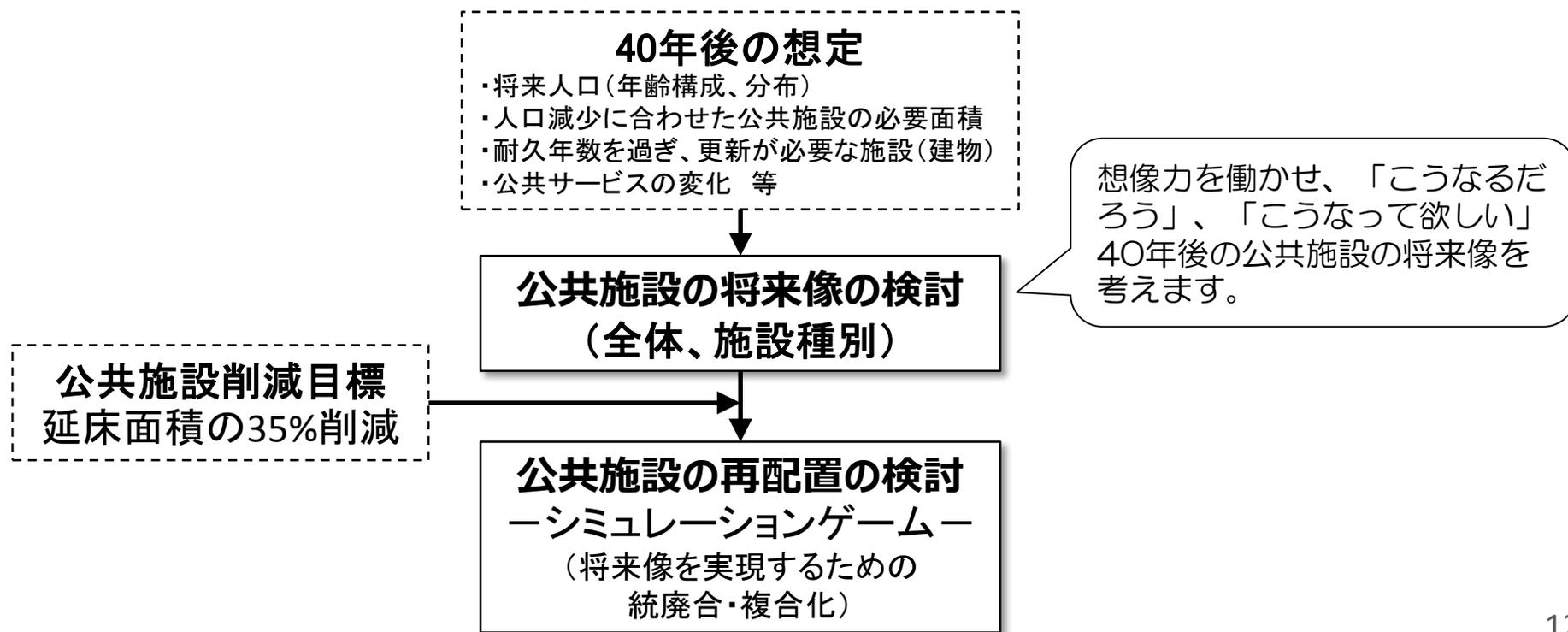
テーマ2の検討内容

● 公共施設再配置

- ・公共サービスは、町民生活の向上と町の振興のため、将来にわたって維持・向上しなければなりません。
- ・町の厳しい財政状況と、将来の人口減少を前提として、町の将来像をどのように描き、公共施設を再配置していけばよいのでしょうか？

⇒40年後の二宮町を想定し、公共施設の将来像と公共施設の再配置を検討します。

< 公共施設再配置の検討の流れ >



テーマ2の検討内容

【公共施設再配置シミュレーションゲームのイメージ】

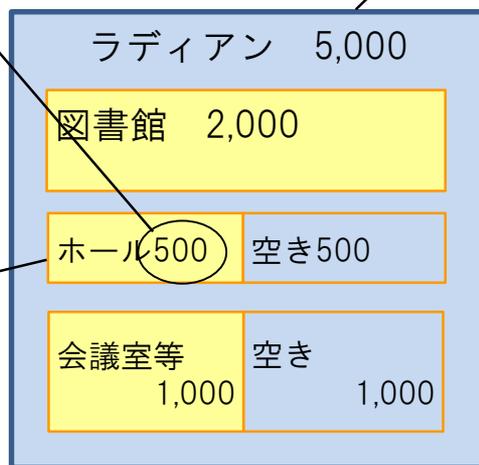
●シミュレーションの考え方

- ・公共施設を**建物**と**サービス**に分けて考え、建物のカードとサービスのカードを使って、40年後の状況にあった建物とサービスの組み合わせを検討します。
- ・建物は、前提条件として提示する削減目標をクリアするように統廃合・複合化します。
- ・サービスは、建物の面積に収まる範囲で、別の建物に移動したり、異なる種類のサービスを組み合わせたりすることができます。
- ・建物の面積を削減するだけでなく、前もって考えた40年後の公共施設の将来像に近づけるように組み合わせを考え、統廃合・複合化する場合はその理由も考えていただきます。

●使用するカード

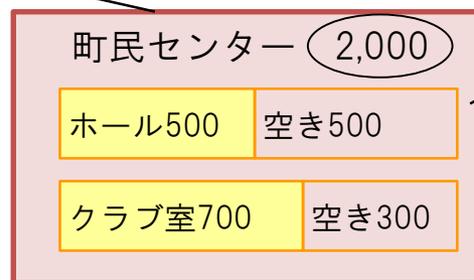
サービス規模ポイント
(40年後の必要面積：
現状の面積と40年後の
将来人口の推計から算
出)

サービスカード



40年後の建物の状態： 使用可

建物規模ポイント
(現在の建物の面積)



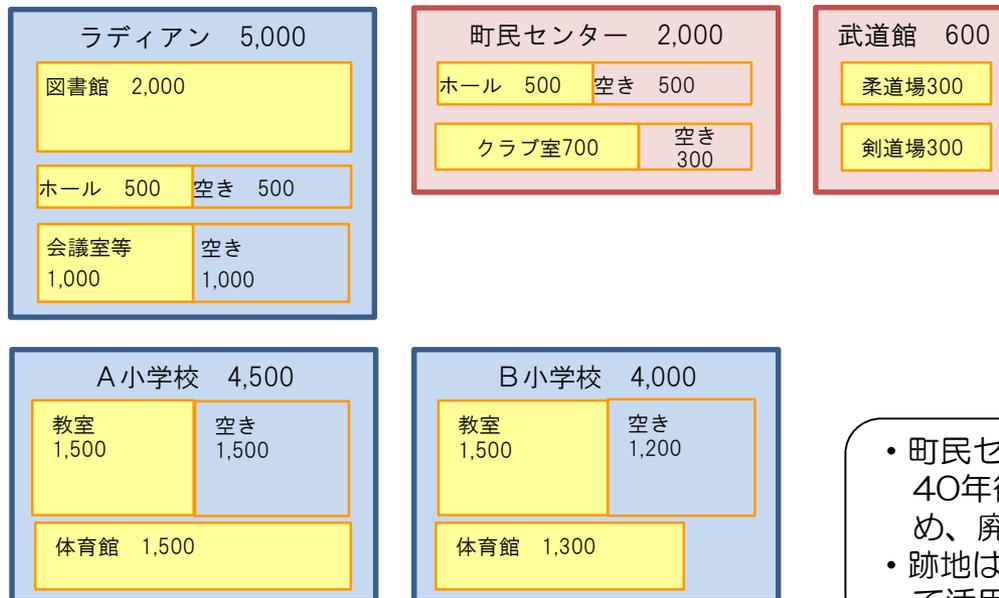
使用不可

- ・ **使用可**の建物はそのまま使い続けてよい。
- ・ **使用不可**の建物は、廃止するか、サービスを統合または複合化して更新しなければならない。

テーマ2の検討内容

<検討イメージ>

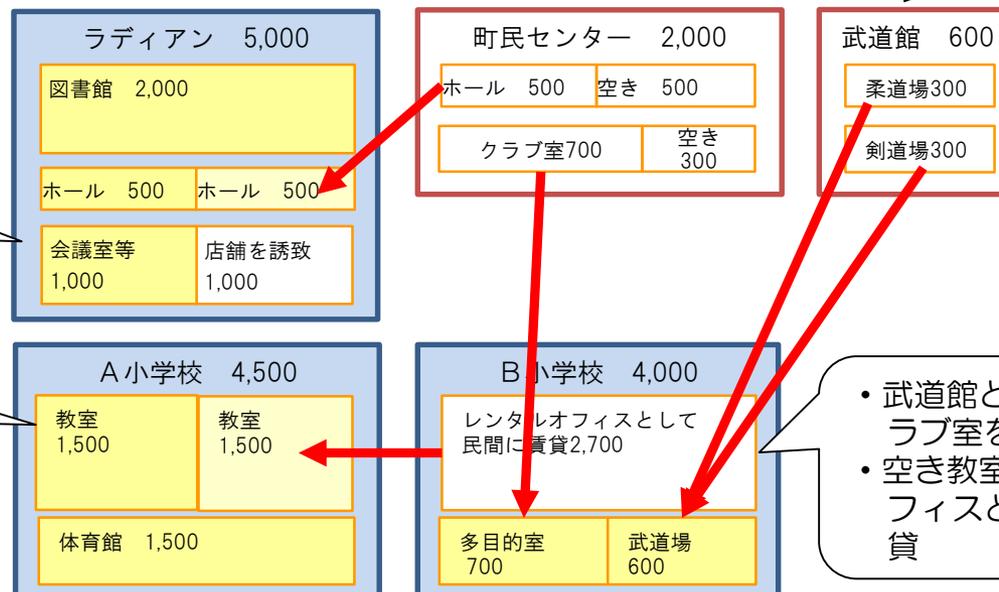
【検討前】



・町民センターと武道館は40年後は使用不可のため、廃止
 ・跡地は、町営駐車場として活用

【検討後】

・町民センターと武道館を廃止し2,600ポイント削減



・ラディアンの空きスペースは、店舗を誘致し利便性を向上させ、施設の魅力を高める

・小学校は人口減少に合わせてA小学校に集約し、複数学級を維持する。

・武道館と町民センタークラブ室を体育館に移転
 ・空き教室は、レンタルオフィスとして民間に賃貸